

2019年度 神埼市立千代田中学校 学校評価計画

1 学校教育目標 夢と誇りを持ち 自ら学び行動できる 心身ともに調和のとれた生徒の育成 ～ Chance Challenge Change ～	2 本年度の重点目標 1 確かな学力の育成 ～活躍の場と論議の場を与え、自ら学ぶ意欲を育てる学習指導～ 2 豊かな心の育成 ～出番・役割・承認による「生徒理解」に基づくチームでの生徒指導～ 3 健やかな体の育成 ～健康安全の確保に取り組む態度の育成～ 4 自主・自立・自律の推進 ～活力のある生徒会活動の醸成～ 5 学校・家庭・地域との連携 ～学校で学び、家庭でしつけ、地域で育てる協育の構築～ 6 教職員の働き方改革～教職員が安心し、生きがいをもって業務遂行できる環境づくり～
--	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 確かな学力の育成 ～活躍の場と論議の場を与え、自ら学ぶ意欲を育てる学習指導～

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・わかる授業、魅力ある授業の研究推進 ・基本的学習習慣の確立	・主体的に学ぶ態度の育成をめざし、校内研究の推進を図る。 ・学習状況調査等結果で、全教科全国・県平均を上回る。	・学習の規律を徹底させながら、単元計画のもと、授業の中で活躍の場と論議の場を設定し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ・授業において、めあて、流れ、振り返りを意識させることで授業の見え方を図る。 ・学習状況調査等の分析と課題の明確化と改善に向けての取り組みを行う。 ・各教科でICT機器の効果的な活用方法を検討し、積極的に活用する。 ・「テストweeks」の取組において、本校独自の学習計画表を作成させ、家庭学習を充実を図る。
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒を80%以上にする。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。

② 豊かな心の育成 ～出番・役割・承認による「生徒理解」に基づくチームでの生徒指導～

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・道徳教育、人権・同和教育の充実	・道徳の授業と教育活動全体を通して心を育む教育と規範意識の向上を図る。 ・人権・同和教育の推進を図る。	・学校行事を核にして体験を生かした道徳の授業や「神埼市4か条の誓い」を具現化した授業を行う。 ・道徳教育実践校の研究会に参加し、各学年において実践をひろめる。 ・「ふれあい道徳」などを通して、生徒・保護者に規範意識・人としての在り方を高める道徳の授業や人権集会、人権講話を実施する。
	●心の教育	・すみそよいあじ(スリッパ並べ・身だしなみ・無言清掃・四か条の誓い・いじめ防止・挨拶・時間)の実践	・すみそよいあじの実践 ・「無言清掃」を徹底し、気づき・我慢する心等を育てる。	・生徒会活動と連携し、千代田9か年の生活基盤であるすみそよいあじを実践させる。
	●いじめの問題への対応	・いじめの生まない学校づくりを目指した実践	・自己肯定感を高め、いじめを生まない認め合う集団を育成する。 ・いじめに関する早期発見・早期対応に努める。	・支持的風土の醸成を図り、出番、役割、承認を意識した学級活動・生徒会活動・行事の活性化を図る。 ・いじめアンケート調査や月ごとの生活アンケート調査を行い、実態の把握に努め、早期対応をする。
	○生徒指導	・生徒指導の充実	・問題行動の発生0を目指し、「報告、連絡、相談」の確実な実施と開発的生徒指導を行う。 ・不登校生徒の減少をめざす。	・最低月1回の生活アンケートの実施と早期対応を行う。 ・連絡、報告、相談の迅速対応の生徒指導を行う。 ・不登校生徒の減少を目指し、SSW、SC、生活支援員、関係機関等との連携を深める体制を築く。

③ 健やかな体の育成 ～健康安全の確保に取り組む態度の育成～

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・生活習慣の改善及び健康管理意識の高揚 ・健康教育の推進 ・部活動の推進及び休養日の適切な実施	・関係機関と連携しながら健康な心と体づくりを目指す。 ・講演や部活動を通して、自分の体づくりに関心のある生徒の育成をめざす。	・「おにぎりの日」「弁当の日」を設け、食事づくりの技能と感謝の心を育てる。 ・「朝ごはん」の必要性を知らせ、喫食率を昨年度より高める。 ・「早寝、早起き、朝ごはん」を推進するために関係機関と連携し、スマホ等を21時になったら保護者に預ける生徒を昨年より増やす。 ・部活動の意義を踏まえた指導と適正なあり方を保護者に知らせ、実践をする。

④ 自主・自立・自律の推進 ～活力のある生徒会活動の醸成～

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○活力のある人づくり	・無言清掃による五つの心の育成 ・生徒会活動、係活動の確実な浸透と実践 ・ボランティア活動の推進	・「すみそよいあじ」を合言葉に各委員会の生徒会活動を充実させる。 ・「無言清掃」を行い、気づき・我慢する心等を育てる。 ・一人一役を与え、自主的な行動ができる生徒の育成をめざす。	・自主性・自律性を育み、ボランティア活動を実践させる。 ・生徒会活動、係活動において、出番をつくり、自分の役割を自覚し、主体的に活動させ、承認する機会を設定する。

⑤ 学校・家庭・地域との連携 ～学校で学び、家庭でしつけ、地域で育てる協育の構築～

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標及び重点項目の周知	・生徒、保護者への周知を図り、保護者の周知率100%を目指す。	・全校朝会での校長講話を通して、生徒への周知を図る。 ・学校教育目標を受けて、各教師が自己の目標を設定し、日常の教育活動を実践する。 ・保護者には、PTA総会や学級・学年PTA、学校便りを通して啓発に努めていく。
	○信頼される学校づくり	・学校公開や授業参観の場の設定 ・地域との連携	・授業参観日の保護者数を昨年以上にする。 ・学校だよりやホームページで学校の情報を知らせる。	・学校公開や授業参観を含め、地域住民が参加しやすい学校行事を実施する。 ・学校支援連絡協議会、学校保健安全委員、児童民生委員、人権擁護委員、校区内小学校との連携を図る。
	○教職員の資質向上	・教職員の資質向上および服務規律意識の向上	・一人一役を生かした教育活動を充実させる。 ・教職員が広い視野を持ち、社会人としての自覚を持つ。	・若手教員を育てる意識を持ちながら、「初任者研修」等を活用し、互いに高めあう。 ・TT少人数授業、授業研究の実践を行い、研鑽することで互いの良さを生かして、授業づくりに生かす。 ・服務等に関する研修や事例研究の機会を設け、服務規律保持の自覚が高まるようにする。
	○地域の特色を生かした教育	・総合的な学習の時間や職場体験学習などで、地域との連携促進	・総合的な学習の時間での体験活動を実施する。	・「次郎物語」の読書週間を設定するとともに、「次郎物語」を使った道徳の授業を行う。 ・1年生の総合的な学習で、「地域訪問」や「神埼の偉人35」等を活用し、郷土学習の充実を行う。
	○安全管理	・保健安全教育の推進と安全体制の確立	・安全教室や避難訓練の実験を通し、交通事故、生活事故の発生0を目指す。 ・施設、設備の管理の徹底を図る。	・登下校時における交通安全指導を定期的実施する。 ・月末の安全点検を実施し、必要な対応を行い安全な環境作りを行う。

⑥ 教職員の働き方改革の推進～教職員が安心し、生きがいをもって業務遂行できる環境づくり～

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進	・OJTの日常化で業務遂行の効率化・適正化 ・退勤目標時刻の設定及び定時退勤日、部活動休養日等の意識化・実践 ・年次休暇等の促進、リフレッシュの推進 ・報告・連絡・相談、連携による役割分担で学校チーム力の向上 ・諸会議におけるペーパーレス化の実施	・職員研修の時間を明確にし、事前打ち合わせは資料を準備することで、限られた時間で有意義な研修にする。 ・定時退勤日の部活動の時間を見直し、部活動終了後30分に施錠を行う。 ・部活動の時間の見直しを行い、保護者に啓発を図る。 ・会議資料等のデジタル化を行い、準備や会議における効率化を図る。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目